

MELON 情報紙

Miyagi Environmental Life Out-reach Network



2013年4月★第102号

南三陸町で自然エネルギー住宅を体験

みやぎ里山応援団と自然エネルギー等普及プロジェクトでは、自然エネルギーの薪ストーブと薪ボイラーを体験する講座を1～4月の間に計3回行ないました。ライフラインが途絶えても独立してエネルギーが得られる薪ストーブ・薪ボイラーに直接触れることができ、薪割り体験も初めての方には新鮮だったようです。

この住宅は南三陸の「福興」モデル住宅で杉の木できた自然素材を豊富に取り入れた住宅です。宮城県の森林保全のためにも、これから建設される住宅には宮城県産材の木材を積極的に使いたいですね。

※このモデルハウスは、「板倉の家」工法による 一般社団法人 南三陸福興まちづくり機構 の事務所です。



「福興」モデル住宅と薪割体験



薪ストーブで米粉のクッキーを焼きました。

MELONとは 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク ― 通称「MELON」。1992年の地球サミットをきっかけに翌'93年に誕生しました。緑と水と食をとらして環境とくらしを考え、地域と地球環境に寄与しようと多くの市民、学者、知識人、協同組合、企業、団体が作られたNGO（非政府組織）です。地域と地球環境を守るため1人ひとりの参加と協力をつなぎます。

MELON 会員募集

MELONの活動は会員の会費で支えられています。

MELON会員特典

- MELON主催イベントに会員割引で参加できます。
 - ごみや水、緑や食、自然エネルギーや企業の環境の取り組みなどをテーマに勉強会や見学会を行う部会に参加できます。
 - ボランティアや部会に参加することにボランティアポイントが1個もらえ、5個集まると1,000円分のMELON商品券と交換できます。
 - 年5回の情報紙をお届けします。
 - メールアドレス登録で、会員同士の情報交換ができるメーリングリストに登録できます。
- ～入会希望の方は事務局までお問合せください～

Index

- P1. 南三陸町モデル住宅で自然エネルギーを体験
- P2. 「再生可能エネルギーであつたろう！」開催
- P3. 生ごみ堆肥を活用した緑のカーテンづくり
89ERSでECOスクールを開催
- P4. MELONcafe プチ講座
かんきょう読み聞かせ
「おかあちゃんがつつたる」
- P5. 協同組合からのお知らせ
50人リレートーク 氏家美由子さん
- P6. ストップ温暖化センターみやぎ通信
- P7. 仙臺農塾大人の食育プロジェクト
映画上映&トークイベント『地産地消』を味わう
- P8. イベント一覧、編集後記

東北地方の冬の省エネを考える。 「再生可能エネルギーであつたまるう!! ～エコなくらしの見学会と勉強会～」開催

日程：2月11日（月・祝）

<午前の部 見学会>

時 間：10:00～12:00

場 所：仙台市内の太陽光パネル、薪ストーブ等設置住宅

内 容：太陽光パネル、薪ストーブ等設置住宅の現地見学会

参加者：20名

<午後の部 勉強会>

時 間：13:00～16:00

場 所：せんだいメディアテーク1Fオープンスクエア

内 容：1. 事例紹介

①太陽光発電 今野勇氏（宮城県地球温暖化防止活動推進員）

②薪ストーブ 小野寺尚弘氏（有限会社デクソン仙台）

2. 講演「冬のくらしにおける再生可能エネルギーの活用について」

講 師：三浦秀一氏（東北芸術工科大学 建築・環境デザイン学科准教授）

※その他、再生可能エネルギー関連のブース出展

参加者：150名



勉強会 会場

寒い冬が続く東北地方。ストーブやエアコンなどの暖房器具の使用が欠かせませんが、これらの使用が増えることにより、エネルギーの使用も増大します。東北電力HP月別電力需要実績によると、東北電力管内の冬の電力需要は夏の1.2倍と、夏よりも冬の方が電力を使用しているのです。東北では、冬場の省エネが特に重要となります。

今回は、関心の高まっている再生可能エネルギーを活用した暮らしの事例紹介や講演を通し、省エネで暖かな冬を過ごすライフスタイルの提案を行うイベントを開催しました。

午前の見学会では、太陽光パネル設置住宅の住人の方から、年間の発電量や売電・買電のグラフの推移の説明をいただいたほか、「雪どめをつけると落雪による被害がない」といったお話もありました。



薪ストーブを見学しました。

午後の勉強会は、東北芸術工科大学准教授の三浦秀一氏を講師に招き、東北地方における再生可能エネルギーの有効性についてお話いただきました。



講師：三浦秀一氏

三浦氏によると、東北地方の家庭の電気使用量は暖房の占める割合が4割、給湯が3割となっており、熱をどう確保するかが問題とのこと。電気でも石油でもない、再生可能エネルギーを使った熱の活用を考える必要があるようです。

そこで、三浦氏がエネルギー源として注目しているのが、日本の国土の64%を占める森林資源です。東北・宮城には森林資源が豊富にあることや、山の木を使わなくなったことが原因と考えられているナラ枯れの問題から、森林資源を活用することが有効となります。

また事例として、山形県最上町の地域ぐるみで取り組む間伐材を使用したチップボイラーや、ペレットボイラーを取り入れている山形エコハウスの紹介もありました。

講演後は活発な質疑もなされ、来場者の関心の高さが伺えました。今後、再生可能エネルギーのますますの普及が期待されます。



多くの来場者が訪れました。

生ごみ堆肥を活用した緑のカーテンづくり

お彼岸も過ぎて、寒かった冬から一転、気象庁の3ヶ月予測（3月～5月）では例年より高めの気温が予想されているようです。今年は桜の開花が早く、夏の高温を予感させます。

グリーンカーテンで一般的なゴーヤは最低気温が12度を超したら枯れる心配はないため5月の中旬に植え付けられ、盛夏の8月を超えて9月下旬まで涼しくしてくれます。

台所の生ごみを堆肥にして、プランターでゴーヤを育ててみませんか？



プランターを使ったゴーヤのカーテンの作り方

苗：根元が太くて、ずんぐりむっくりを選ぶ
（5月上旬より出回る）

プランター：30ℓ～50ℓ（長さ50cm～70cm
幅30cm、深さ30cm）程度を選ぶ

30ℓなら1本、50ℓなら2本植えられる。

土：園芸土、腐葉土、鹿沼土、これらをプランターに入れる前に5：4：1で混ぜる。

牡蠣殻石灰、生ごみ堆肥を移植ヘラで3つくらいを混ぜて2週間ほど熟成させる。

鉢底には水はけが良いように大きめに砂利石（鉢底石）を敷く。

肥料：完熟堆肥2握り、油粕1握り程度を鉢の底に元肥として入れておく。

ネット：網目10cm程度のネットを上から吊り下げられるようにする。

5月25日（土）には田中紳伍さんを講師、ガーデンガーデンを会場に緑のカーテン講座を開催します。

MELONまでお申込・お問合せ下さい。

「GO!!GO!!89ERS ECOスクール！」を開催

日 程：1月27日（日）

会 場：仙台市体育館

参加者：29名

講 師：株式会社七福茶本舗 佐藤海苔店

プロバスケットbjリーグ・仙台89ERSのホームゲームにおいて「GO!! GO!! 89ERS ECOスクール！」を開催しました。これは、89ERSの運営会社と89ERSを支援しており環境活動にも熱心な株式会社ウジエクリーンサービスとの共催で開催したものです。

内容は、ウジエクリーンサービスさんの環境への取り組みの説明、89ERSにちなんだ8.9mの恵方巻き作り、エコステーションのごみ分別模擬体験と盛りだくさんで

した。恵方巻きに使ったお米はウジエクリーンサービスさんに提供していただきましたが、これはウジエスーパーで出た生ごみをコンポストで堆肥にし、その有機肥料を使って栽培したものです。

8.9mのジャンボ恵方巻き作りでは、苦戦しながらも力を合わせて楽しく作ることができました。またごみ分別の模擬体験では、「紙やプラスチックでも汚れたものはリサイクルできないことを初めて知りました。」といった感想も聞かれ、有意義な時間となりました。

4月14日（日）のホームゲームでも同イベントの第二弾として米粉を使ったパフェづくりの講座も行いました。詳しくはMELONブログの報告をご覧ください。



みんなでジャンボ恵方巻きづくり



ごみ分別講座



MELONcafe

MELONcafe プチ講座

2月2日(土) 13:30～14:30
「着物をリメイク♪貝のおひな様作り」
3月2日(土) 13:30～14:30
「米粉で簡単♪さくら餅、イチゴ大福」

2月は着なくなった着物を再利用して、ホッキ貝を使った「貝のおひな様作り」の講座を行いました。3Rについて説明をし、ゴミの減量についてお話をしてから作成しました。昨年からの人気講座で10名の定員のところ申込みが大変好評だったため、15名に枠を広げて受付しました。



ほっき貝でおひな様を作りました。

布はあらかじめパーツに切って事前準備を行ったので当日は両面テープで貼っていただけでした。参加者からは「自宅でほかの貝で五人囃子や三人官女を作ろうかしら」などの感想をいただきました。

3月は米粉の使用を促進するため、「さくら餅といちご大福」を作る講座を行いました。現在日本では食料自給率が40%と戦後以降、輸入食材に押されています。今回、米粉を使う伝統的和菓子料理をすることで自給率のUPにつながります。今回使用するのは「白玉粉」と「道明寺粉」2種類の米粉です。どちらも「もち米」を細かく砕いたものです。季節を感じて、季節の祝い事を家族でして、地元の食べ物を楽しむのもいいですね。

また、4月には着なくなった着物を利用した「さくらの飾り置き作り」の講座を行います。ゴミの減量を考えながら、一緒に体験しませんか？



米粉でさくら餅とイチゴ大福をつくりました。

今後のMELONcafe プチ講座

5月25日(土) 13:30～15:30
「古着で作ろう！エコなシューズキーパー(仮)」



おかあちゃんがつくったる —おとうちゃん、マジで考えようよ—

「おかあちゃんがつくったる」・・・そう言われると少しどぎまぎします。子どものこころの動揺をうまくユーモアたっぷりに絵本にしてくれています。宮城県だったら「かあちゃん、つくってける」でしょうか。ううむ、やっぱり、自分の子ども時代を思い出しても少し不安になります。「おとうちゃんがつくったる」となると、まず道具を買いにホームセンターのようなDIYショップへ走るお父さんの姿をどうしても考えてしまうから、「おかあちゃんがつくったる」の方が環境にはいいんですが。

自分で修理したり、作ったりすることが『はすかしく』思うようにされてしまってから、ずいぶん経ちますね。大量消費。たくさん作って、たくさん売る。売るためには、「あまり長く保つようには作っていない」などというビジネス話も聞きあきました。「こっちの方がいろん

な機能がついています。」「修理するんでしたら、買った方が得ですよ。」と言われると、「まだ使えるのに…」と後ろ髪を引かれてもついつい買ってしまうのですね。

ほんとうの物のありがたさを知ったのは震災のあとでした。でも、ほとぼりが冷めれば「購買力を上げる」政策と引き替えに「原発ゴー」に口をつぐみます。

長谷川義史 作「おかあちゃんがつくったる」(2012年4月、講談社)にでてくる小学3年生のぼく(よしふみ)はお父ちゃんが亡くなって、姉ちゃんと母ちゃんの3人で暮らしている。お母ちゃんはミシンで何でも作ってしまう。学校に行くとそれを見てみんなが笑う。でも、ぼくは恥ずかしいけど、お母ちゃんがつくってくれたものを着ていく。で、父親参観の日、ボクには最大のピンチがくる。

母ちゃんは強い。へこたれない。しっかりと原発に「ノー」といっているのも女性が多い。だから、お父さんたちよ、「おとうちゃんがつくったる。」と本気でかからないとおいて行かれてしまうんだなあ、きっと。



各協同組合からのお知らせ

MELON の協力団体である各協同組合が取り組んでいる、環境に関する情報をご紹介します。

新しい“こ～ぷの森”に木を植えに行こう

今年度は2ヶ所に新しい森ができます。その森への植林に参加する方を募集中です。南三陸町での植林時には前泊コースも設け、南三陸の今を視察します。親子での参加も歓迎♪

「こ～ぷの森田東山（たつがねさん）」（南三陸町歌津）5月12日（日）

①前泊コース：5月11日（土）仙台駅西口大型バス発着所 9時50分集合

参加費 大人10,000円、中学生8,000円、小学生7,000円、未就学児3,000円

（宿泊代、バス代、5/12昼食代込み）募集30人

②当日参加コース：5月12日（日）仙台駅西口大型バス発着所7時30分

現地集合：校舎の宿さんさん館 9時30分

参加費（バス乗車） 大人2,000円 中学生以下1,000円、未就学児無料

（現地集合） 大人500円、中学生以下半額、未就学児無料

*申し込み締め切り：4月26日（金）

※申し込み方法：企画名、氏名、住所、電話番号を明記し下記までハガキ、FAX、メールでお申込ください。

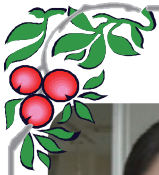


申し込み・問い合わせ先

みやぎ生協生活文化部くらしの活動事務局

〒981-3194 仙台市泉区八乙女4-2-2 TEL：022-218-3880 FAX：022-218-3663

e-メール：sn.mkankyok@todock.jp



MELON20周年をめざせ！ 50人リレートーク



第45人目の執筆者

氏家芙由子さん
（エネシフみやぎ）

2012年5月に誕生した「エネシフみやぎ」。合い言葉は、「宮城でもエネルギーシフト＝持続可能な社会に向けたエネルギー利用の転換を進めましょう！」です。これまで月1回程、エネシフをテーマに勉強会や見学会を積み重ねてきました。木質バイオマス利用や小水力・太陽光発電など講師を招いての勉強会や、エネルギー利用にこだわった住宅や木質ペレット工場の見学会など、毎回刺激的な内容です。ふだんはフェイスブックやメーリングリスト等で情報交換を行い、既に活動をはじめていた「エネシフヤマガタ」とも交流しています。老若男女、多様な参加者との出会いも楽しみの一つ。ときにビールを呑む会なども行いつつ、宮城でエネシフをめざす大切な仲間が集う場となっています。

東京電力福島第一原発事故後、脱原発・エネルギーシフトに取り組む必要性がいっそう叫ばれていますが、単

に自然エネルギーを増やすだけではなく、その過程に市民が参加することが大事だと私たちは考えています。地域の人が中心となりオーナーシップをもって進める自然エネルギーの取り組みは“コミュニティ・パワー”と呼ばれ、世界各地でも増えています。エネシフみやぎでは自然エネルギーの導入実践もめざしています。現在、太陽光パネルを使った市民発電所づくりを企画。ぜひ皆さんもご参加ください。

フェイスブック：

<http://www.facebook.com/miyagi.de.eneshif>

ブログ：<http://eneshifmiyagi.tumblr.com>

メールアドレス：eneshif.miyagi@gmail.com

… 次号執筆者紹介 …

新沼慎二さん

（一般社団法人Bush Clover Community 代表理事）



ストップ温暖化センターみやぎ通信 Vol.59

日本の温暖化対策はどこへ向う!? 「COP18報告会～日本・世界の温暖化最新動向～」開催

日 時：3月20日（水・祝）
会 場：宮城県庁1Fみやぎ広報室
講 師：平田仁子氏（気候ネットワーク東京事務所長）
参加者：66名

2012年11月26日から12月7日にかけて、カタールのドーハでCOP18（温暖化に関する国際会議）が開催されました。今回のその報告会として、現地からタイムリーな情報発信を行った気候ネットワークの平田仁子氏を講師に招き、COP18の結果を踏まえた今後の日本の温暖化対策について、NGOの目線からお話いただきました。

■気候変動枠組条約

1992年採択、1994年発効（194カ国参加）。温暖化防止のための初めての国際的な枠組みで、CO₂濃度の安定化が究極の目的です。「共通だが差異ある責任」として、先進国と途上国をわけ、先進国により多くの義務を課しています。

■京都議定書

1997年採択、2005年発効（192カ国参加）。先進国に2008～2012年の削減義務（第一約束期間）を課しました。EUは8%、アメリカは7%、日本は6%の削減です。

■ドーハの合意

京都議定書第2約束期間（2013～2020年）、議定書改正を採択し、2020年からの新たな枠組みを2015年に合意するためのプロセスとその方向性などを決定しました。

■日本の交渉姿勢

京都議定書には残らず、アメリカ・カナダ・ロシア・ニュージーランドとともに削減義務を負わない自主的な取り組みを行うこととなりました。

■国内動向

25%削減目標はゼロベースで見直しとなったほか、地球温暖化対策推進法は中長期目標なしの改正案が閣議決定されるなど、消極的な動きです。

■NPOとしての今後

国の方針に依存しない自立的な地域づくりや、再生可能エネルギーと省エネの実践など、地域からの地殻変動を行っていくことが重要となります。



講師：平田仁子氏

国際交渉となると難しいイメージがありますが、平田さんのポイントを絞ったお話はとても分かりやすく、参加者からも「現状がよく分かり、大変有意義でした。」「温暖化防止の取り組みの日本政府の温度差について考えさせられた。」といった感想が寄せられました。

センターでは、今後も世界の動向について注目していきたいと思えます。



報告会の様子

推進員だより No.8

推進員交流会を開催しました。

3月20日に開催したCOP18報告会と合わせ、推進員さんの活動の活性化や今一度推進員としての役割やあり方を再確認することを目的とした推進員交流会を開催しました。宮城県の施策に関する情報提供や、長谷川公一センター長から、「京都議定書後の推進員の役割と意義」と題したお話をいただきました。推進員さんからは「推進員同士が情報を交換しあう場がもっとほしい」との声もあり、今後も交流会の開催を検討していきたいと思えます。



29名の推進員さんに参加いただきました。

仙臺農塾 大人の食育プロジェクト

仙臺農塾は、食事がおろそかになりがち忙しい社会人を対象に、宮城の食のプロフェッショナルをゲストにお話しと食事と会話が楽しめる敷居の低い連続講座です。

1月16日（水）「県南の有機農家に聞く、ホントの話」

ゲスト：三田さえ子さん（村田町有機栽培農家）

会場：おひさまや 参加：19名

2月20日（水）「仙台の冬限定・セリ鍋で飲む！」

ゲスト：三浦隆弘さん（なとり農と自然のがっこう）

会場：うれしや 参加：28名

3月13日（水）「土で放電、温泉で充電」

ゲスト：大沼伸治さん（東鳴子温泉旅館大沼5代目湯守）

会場：和醸良酒〇たけ 参加：24名

2月のゲスト・三浦隆弘さんは、名取市でセリを栽培しており、「仙台セリ」として知らせるそのセリは380余年もの歴史があります。名取増田地区は地下水源が豊富で、その豊かな地下水で育てられているため葉や茎だけでなく、根っこもおいしく食べられます。地元の土と水に適応し、地元で愛され続けてきたその伝統野菜は、地元の文化でもあります。しかし、さまざまな理由で各地の伝統野菜は姿を消しているのが現実。伝統野菜が消えることで地元の食文化も忘れ去られてしまいます。作る人が



2月 油揚げ出汁のセリ鍋に舌鼓

いて、伝える人がいて、食べる人が必要です。三浦さんは「セリ鍋」という形で飲食店と共に文化を伝えていきます。

3月の旅館大沼さんは、1200年もの歴史ある温泉地で、日本古来の保養文化「湯治」を新しい形で提供しています。それが「農バカ」＝農業＋湯治（農のあるバカンス）。農作業で土に触れて汗を流し、大地から湧く温泉に浸かって、地場の旬野菜をふんだんに使った一汁三菜の食事です。心身を整えて癒し、人と触れ合う湯治文化を今のスタイルで人に伝えていきます。

『生きることは、食べること』。1月の三田さえ子さんの言葉は、こだわりの野菜を作ってきた中で突如訪れた放射能汚染という苦悩の末の重い言葉です。仲間と市民測定所「てとてと」を作り、作物を測定し結果と共に提供することで、食べる人に情報を提供し共に歩んでいます。

宮城にはたくさんのこだわりの食と作る人・伝える人がいます。知らないなんてもったいない！ 食の背景や思いを聞いて、感じたことを伝えてくれる人を増やしていきたいと思います。



1月 おひさまやさんからレシピもいただきました！

映画上映&トークイベント「地産地消」を味わう

日時：1月26日（土）13：00～15：00

場所：アーク仙台ビル4階

参加者：約30名

ゲスト：田村和大 岩手県盛岡市「自然栽培農家

CosmicEnergy」経営者

中山 建 宮城県村田町「自然農場 風天」経営者

三浦隆弘 宮城県名取市 伝統在来野菜の農業経営者

映画：「それでも種をまく」

（2011年国際有機農業映画祭上映作品）



ゲスト（左から三浦氏、田村氏、中山氏）

3～11月の毎月第4土曜日に新伝馬町公園にて開催していたまちなかecoマルシェ。そこに出品していた農家3名をゲストに、クイズや映画上映、ゲストトークと試食会を行いました。

参加者からは、「農

家の思いを聞くことが難しいので、直接聞ける場はとても貴重な体験でした。」との声があり、無農薬や固定種※や伝統野菜にこだわり、自分のスタイルで農業に取り組む若い農家の思いは参加者の心にも響いたようです。農業とつながりがいい消費者が増える中、時代は消費者が自らの自己責任で食べるものを選ぶ時代になっています。私たちはどんな食や農を応援していくのか、どういう選択をするのか、今回のような特別な場での体験に終わらせるのではなく、「日常に何をするか」が重要です。

※「固定種」とは、人為的な交配が加えられていない種のこと。長い年月をかけて自然淘汰され地域の風土に合った種として固定化したもので、伝統野菜もこれにあたる。見栄えや大きさにばらつきがあるが、独特のうまみや風味をもち、種を取ることができる。それに対して「F1種（一代雑種）」があり、人工的交配によってつくられた一代目の種で市場に出回っている多くがこのF1種。常にそろった品質で生育も早いですが、二代目になると異なる性質が出てしまう。

※この企画は、MELONも構成員になっているまちなかecoマルシェが社団法人再開発コーディネーター協会を助成を受け、MELONインターン生が企画・開催しました。

やってみました！「税額控除」の申請 ＝10000円の寄付で3200円の所得税が戻りました＝ (会員 K.Kより)

MELONが公益財団法人になったことにより確定申告で「税額控除」が可能になりました。そこで、早速2012年度の確定申告でこの「税額控除」の申請をしました。

- ①まず、税額控除の対象になる寄付金を合計します。私の場合は10000円でした。(MELONへの寄付以外にも日本赤十字、ユニセフなど公益事業を行っている法人への寄付が対象になります。)
- ②その合計額から2000円を差し引いた金額が「税額控除対象額」になります。私の場合は寄付金が10000円でしたので8000円です。
- ③「税額控除対象額」の40%が「税額控除額」となります。したがって、8000円×0.4(40%)＝3200円、が控除額です。この金額が2012年度に収めた所得税額から減額することが認められます。仮に2012年の所得税額が50000円とすると50000－3200＝46800円が確定申告後の所得税額となります。

ということで、仙台北税務署で簡単に手続きできましたよ。MELONにも私たち会員にもうれしい制度です、みなさんも活用してみませんか。

前号(101号)別紙TPP集会参加レポート訂正

前号の別紙として、TPP交渉参加反対宮城県民集会参加レポートの一部に誤りがありましたので、お詫びして訂正いたします。

- ・左側9行目 (誤)心配 → (正)失敗
- ・右側7行目 (誤)試料 → (正)飼料
- ・右側18行目 (誤)米 → (正)コメ

国内の法律よりも優先されるTPP条約、農業だけではなく保険制度や医療にも大きく影響を及ぼします。今後もTPPへの動きを注視していきましょう。

編集後記

- お彼岸も過ぎて、寒かった冬から一転、気象庁の3ヶ月予測(3月～5月)では例年より高めで予想されているようです。今年は桜の開花が早く、夏の高温を予感させます。ゴーヤの植え付け時期も少し早まるかも!! (篠原)
- 今年花粉はひどかった…。杉ばかりを植林した時代には、杉花粉で日本中が困ることは予想だにしないのでしょね。最近桜の植林も多いですが、そのうち桜花粉症が流行ったりするのかな? (廣重)
- 南三陸町に主催イベントに行ってきました。帰り道に「さんさん商店街」で海鮮丼をいただき、おいしかったです! お昼はとて混むので17:00以降の夕食タイムがすいていてオススメですよ! (菅田)
- 年度末で報告書の作成に追われています。今年度の事業を振り返って懐かしみつつ、反省しつつ、次年度はより高い成果を目指してがんばりたいと思います! (岸)

MELON イベント情報

これから開催を予定しているイベント・会議をご紹介します。

各イベント参加者を募集しています。詳しくはMELON事務局までお問合せください。

※会員以外の方も参加できます。

4/21(日)	「自然エネルギー体験会 in 南三陸『福興』モデル住宅」開催
4/27(土)	「新緑祭」に里山応援団出演
5/13(月)	みやぎ里山応援団 例会
5/15(水)	仙臺農塾「小さな卵に大きな浪漫!～若手農家奮闘記～」開催
5/18(土)	「春の森で遊ぼう! in 川崎町貸森林」開催
5/21(火)	MELONcafe 企画部 例会
5/23(木)	4R推進部会 例会
5/25(土)	「生ごみ堆肥化&ベランダ園芸講座 緑のカーテンを作ろう」開催 MELONcafe プチ講座「古着で作ろう! エコなシューズキーパー(仮)」開催
6/15(土)	MELONcafe プチ講座 内容未定
6/30(日)	仙臺農塾特別企画! 「大人の遠足 in 大崎市田尻 田んぼと豚を五感で楽しもう」開催

※日程や内容の変更、上記以外にもイベント開催する場合があります。ご了承ください。

〈会員状況〉

830名

法人 98
任意団体 14
個人 727

2013年3月22日現在



ボランティアポイントカード制度 をご活用ください

会員の方には、「MELON ボランティアポイントカード」を発行しています。部会・プロジェクトの例会出席、作業やイベントでのお手伝いをする、1ポイント差し上げます。5つ貯まると1,000円分のMELON協力商品券と交換できます。

MELON 協力商品券とは

みやぎ生協、日専連仙台で発行している商品券です。金額の一部がMELONに寄付され、環境保全活動にいかされます。宮城県内の日専連加盟店及びみやぎ生協の各店舗でご利用になれます。

発行元 公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON) Miyagi Environmental Life Out-reach Network

〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45 フォレスト仙台5F

★事務局 TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713

★情報センター TEL 022-301-9146 FAX 022-219-5710

★ストップ温暖化センターみやぎ TEL 022-301-9145 FAX 022-219-5710

E-mail melon@miyagi.jp URL http://www.melon.or.jp/melon/



この印刷物は、輸送・マイレージ低減によるCO₂削減や地産地消に着目し、国産米ぬか油を使用した新しい環境配慮型インキ「ライスインキ」で印刷しており、印刷用紙へのリサイクルが可能です。

※ MELON 情報紙は再生紙を使用しています。